令和7年度 愛知県立時習館高等学校 学校評価の重点目標等

本年度の重点目標	「時習館スピリッツ」と「時習館の学びの物語」を確立し継承するとともに、中高一貫教育と国際バカロレアを着実に導入する。		
担当	重点目標	具体的方策	評価規準
総務部	<ol style="list-style-type: none"> 生徒・職員の防災意識をより高める。 附属中学校開校に向けて学校安全マニュアルを改定する。 家庭と学校との間の、簡便で密な連絡方法の確立を目指す。 	<ol style="list-style-type: none"> 生徒・職員に「防災・減災だより」を発行し防災意識の向上を図る。 防災訓練・職員防災研修等を通じて、生徒・職員に今年度以降の課題を考えさせ、学校安全マニュアルに反映させる。 「デンタツくん」の安定的な運用体制確立を目指すとともに、利用の方法や機会について検討する。 	<ol style="list-style-type: none"> 生徒・職員が「防災・減災だより」をもとに、防災について興味・関心を持ったか。 附属中学校開校に向けて学校安全マニュアルを改定できたか。 「デンタツくん」の、より実用的な利用について検討・実現できたか。
教務部	<ol style="list-style-type: none"> 中高一貫、全日制単位制のスタートにむけて、各教科と連携しながら、本校にふさわしい教育課程を編成する。 中高一貫のスタートにむけて図書館の整備を進めるとともに、来館者を増やして活気ある図書館にする。 	<ol style="list-style-type: none"> 他校の実例を踏まえながら、教科会と密に連携し、教育課程の編成を行う。 生徒(中学生を含む)の興味を引く本の選定や、図書委員の活動、図書館の展示などを工夫する。 	<ol style="list-style-type: none"> 各教科と連携しながら、本校にふさわしい教育課程を編成できたか。 図書館の来館者や、貸出冊数が増加したか。
生徒指導部	<ol style="list-style-type: none"> 品位ある身だしなみを心掛け、責任ある行動がとれる生徒を育成する。 遅刻指数1%未満を目指す。 交通安全や交通マナーの遵守を徹底する。 いじめや不登校の未然防止や早期発見に努める。 学校行事・部活動・ボランティア活動などに積極的に取り組むことのできる生徒を育成する。 	<ol style="list-style-type: none"> 身だしなみ指導、立ち番指導などの充実と情報モラルの実践を促すことで、生徒の意識の向上を図る。 担任との連絡を密に取り、生徒の精神状態や遅刻の要因を考察する。また、毎学期で3回目・6回目・9回目の遅刻ごとに面談を行い、遅刻の多い生徒に対して支援し遅刻防止に努めていく。 生徒への啓発活動を工夫し、命の大切さを理解させ、交通マナーを守らせる。 生活実態調査などを有効に活用し、いじめの未然防止や早期発見に努めるとともに、多様な問題を抱えている生徒への理解を深める。 行事を運営する生徒への声かけ、部連会や激励会の開催、各種ボランティア事業の広報を通して生徒が積極的に参加できる土壌を整備する。 	<ol style="list-style-type: none"> 生徒が品位ある身だしなみを守り、各場面で時習生らしく責任ある行動ができたか。 規律ある行動に対する意識が向上し、遅刻指数1%未満に抑えることができたか。 生徒の交通安全に対する意識が向上し、交通マナーを守ることができたか。 全職員が情報を共有し、いじめや不登校の未然防止や早期発見をすることができたか。 学校行事・部活動・ボランティア活動などに積極的に参加できたか。
進路指導部	<ol style="list-style-type: none"> 1年 自己を見つめ将来どうなりたいかを考えさせ、最高峰にこだわり進路目標を築き上げさせる。 2年 低学年時の目標を持続させ、中励み期として意欲的に学習に取り組ませる。 3年 自己のあるべき姿を見つめつつ、最後まで挑戦する勇気を持たせる。 	<p>すべての学年で、積極的・戦略的に進路情報を発信する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1年 個々の特性を踏まえつつ、将来の「どうなりたいか」について考えさせ、主体的に進路目標を設定させ、レポート学習を行う。 2年 進路行事(進路講演会、学部・学科説明会)や担任面接などを通して、具体的な自身の将来像を考えさせ、より明確な進路目標を設定させる。 3年 設定した進路目標の具現化のため、最後まで粘り強く志望校に挑戦し続けるよう指導する。日々の授業が強固な学習基盤となるように、進路講演会や補講・学習会、大学別の説明会でやる気を喚起する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1年 自身の将来を見通した高い進路目標を設定させることができたか。 2年 より明確な進路希望を設定・持続させ、意欲的に学習等に取り組ませることができたか。 3年 自ら進路目標を設定して学習に取り組み、志望を貫き通す姿勢を保持させることができたか。
保健部	<ol style="list-style-type: none"> 健康と安全に留意して学校管理下(授業・部活動・学校行事など)の事故や怪我の減少を目指す。 各委員会活動(保健・美化・緑化)の充実を目指し、生徒の主体的な活動の促進に努める。 感染症の予防や保健衛生、美化・緑化などの環境衛生活動の推進を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> 安全点検の徹底と修繕の迅速な対応を目指し、予測可能な事故や怪我の予防策を周知させる。 定期開催の各委員会を生徒主導の委員会となることを目指し、意義や役割、責務を理解させる。 学校に関わる全ての職員・生徒が安心・安全な活動が送れるような環境づくりを目指す。 	<ol style="list-style-type: none"> 事故や怪我の実態を把握すると共にその原因を究明し、減少を図ることができたか。 各委員会を定期的かつ適切な時期に開催し、生徒の主体的な活動を促すことができたか。 感染症予防対策、校内美化・緑化活動の実態を把握し、環境衛生の改善を図ることができたか。

探究推進部	<p>(1) 第Ⅳ期SSH事業の目標である「総合知の獲得」を目指した教育活動の具体的方策を、全職員体制で検討、実践する。</p> <p>(2) SSH・あいちリーディングスクール(以下「あいちLS」とする)事業の成果普及のための広報活動を充実させる。</p>	<p>(1) 2年生の「総合的な探究の時間」において、主務者以外に各講座のリーダーとなる教員を配置した指導体制を確立し、学年の全教員で「総合知の獲得」を目指す教育活動を展開する。1・3年生の「総合的な探究の時間」についても、全担当教員の知見や先進校の事例を取り入れながら、生徒の将来に接続する教育活動を目指す。これらの取組は「探究推進専門委員会」から教科会にも伝達し、各教科における探究型の教育活動(以下「探究型授業」とする)の機運の向上に繋げる。</p> <p>(2) SSH・あいちLS事業の成果を、本校生徒を対象に普及させる場を設ける。また、事業実施時の写真や参加生徒の声を、ホームページを活用し、保護者や地域に向けて積極的に発信する。</p>	<p>(1) 「総合的な探究の時間」や各教科の探究型授業を通して、生徒の認識がどのように変容したか。また、教員の認識がどのように変容したか。</p> <p>(2) SSH・あいちLS事業について、生徒や職員、保護者はどのように捉えているか。</p> <p>(1・2ともに学校評価アンケート及びSSH意識調査の結果から評価する)</p>
1年学年会	高い進路目標を実現するために、自考自成一できる生徒の育成。	<p>指示・課題を減らし提案を増やす～自考自成一を促す～</p> <p>(1) 難関国公立大学を目指す意義を理解させ、自身が行くべき大学を考えさせる。</p> <p>(2) 無用の遅刻欠席をさせない等、基本的な生活習慣を定着させ、信頼できる大人にさせる。</p> <p>(3) 授業第一ならびに家庭学習週25時間を徹底させる。</p>	<p>(1) 進路希望調査において、一定数以上の志望者である。</p> <p>(2) 無用の遅刻欠席が0である。</p> <p>(3) 8割の生徒が家庭学習週25時間を達成している。</p>
2年学年会	<p>(1) 時習館高校の中核としての自覚と自律心を持ち、自考自成一できる集団を育成する。</p> <p>(2) 心身の健康を保つことができる基本的な生活習慣を維持させる。</p> <p>(3) 高い進路目標を掲げ、実現に向けて自らの課題を見つめ、自律的に学習に取り組む習慣の確立を目指す。</p>	<p>(1) 生徒たちが自覚に基づいた主体的な行動を取ることができるよう、生活習慣、挨拶、清掃、部活動や学校行事への参加について、学年団で指導方針を共有し継続的に支援する。</p> <p>(2) 授業の価値を高め、大切にさせる指導を中心に、担任面談や学年集会、教科指導を通じて高い志を持たせる。</p>	<p>(1) 心身の健康を保ち、挨拶、清掃、身だしなみなどの基本的な生活習慣を維持し、学校の中核として主体的な行動を取ることができたか。</p> <p>(2) 生徒たちが授業に誠実に臨み、高い目標を持って自律的に学習に取り組むことができたか。</p>
3年学年会	時習館高校の最高学年としての自覚をもち、進路目標の実現に向けて、高い志と強い意志で取り組むことができる集団の育成を目指す。	<p>(1) 学年団で方針を共有して指導にあたり、これまでに確立した基本的な生活習慣の維持を促す。</p> <p>(2) 学年集会や担任面談などを通じて自ら目標に向かう意識づけを行い、進路に対する高い志を継続させる。授業を大切にする指導を心がけ、学力中位層の引き上げ、上位層・下位層へのフォローを実施する。</p>	<p>(1) 礼節、時間、清掃などの生活における基礎力を確立・維持できたか。</p> <p>(2) 高い志と目標に向かう強い意志をもって、安易に妥協せず粘り強く努力できたか。</p>